

創る

地域活性リポート

フォーナイン・
ストラテジーズ
代表取締役
西村豊



百獣の王ライオンは、親から狩りを習う。単細胞生物のアメーバに至っては、誰に教わることもなく餌を捕食する。それなのに万物の霊長とも自負する我々は、自然の恵みを自ら採って食べる術を知らないで、何の憂いもなく平然と生きています。それは英語を話せないよりも、パソコンを打てないよりも人間としての基礎的な能力

人間の最も基礎的な「農力」を高めよう

の欠如なのではないでしょうか。

近代以降の社会は分業で成り立っていると反論があるかもしれませんが、しかしそういうあなたは、お金や会社の奴隷になっていませんか？ いざとなったたら働く本でも自給共生ができるようになることが、人間として、農耕民族のDNAを受け継ぐ日本人として、最も基本的な生活能力だと感じないでしょうか。そんな思いから立ち上げを思いついたのが「農力検定」です。この春には「特定非営

利活動法人えがおつなげて」を窓口にした地域社会雇用創出事業としても採択していただきました。

農力検定創設の一義的な狙いは、生産性が低いと軽視されてきた農山村の田畑を、都市生活者が農力を身につける教育フィールドと見なすことで、①新たな雇用の創出②農

家の所得補助③農山村の活性化、を同時に解決することです。

それは都市生活者の興味をキツチン菜園やベランダ菜園から、市民農園、援農ボランティア、週末農業、半農半Xなどへ具体的に導き、今まで可視化されていなかった農力向上の課程をランクアップとして「見える化」することでノウハウ取得の体系化と効率化を図ります。

実際の運用は、ダイビングのライセンス取得手続きを手本にする

鎌の使い方を習う農力検定の受講者たち。埼玉県宮代町で10年9月12日



とともに、ダイビングツアーが地元漁民とも協働で成り立っている事例を参考に、ペーパー試験だけで完結しない、実技と経験の積み重ねを必須とする、奥の深い検定とすることをもくろんでいます。

しかし新規事業はそのビジネスモデルに新規性があればあるほど、普及するには費用がかかります。まずは「都市生活者の農力向上」というコンセプトが世間に浸透しないと、マーケティングだけ

で膨大な費用がかかり、いつまでたっても事業化できません。そこで思いついたのが10月1日に埼玉県宮代町で開催した「農力向上&震災復興大作戦！チャリティ収穫祭」でした。毎年秋に日比谷公園で行われる「土と平和の祭典」にかかわっているプロデューサーのハッタケンタローさんや半農半歌手のYaeさんのご協力を得ることができ、また東武鉄道さんの全面支援で、駅張りポスターを沿線100カ所に掲載していただきました。

これをバネに年明けには「耕作放棄地再生サミット」を開催し、我々のミッションである「経済成長に頼らない最小幸福社会へのソフトランディング」を訴えるとともに、その手法として、農作物の販売では採算が合わない耕作放棄地を「農力検定」の实地研修場所として活用するビジネスモデルを、個別具体的に提案していきます。

にしむら・ゆたか

1960年生まれ。「持続可能な生活を考える会」「都市生活者の農力向上委員会」「アフター・ピークオイル研究会」をそれぞれ主宰。アーティスト東京タワー・ボランティアセンターUSTスタッフ。